
個別施策の検討（2）

方針 3

地域の安全を支える緑・水辺づくり

(1) 施策の考え方

方針3

地域の安全を支える緑・水辺づくり

自然災害に強いまちを支え、防災・減災等の多様な効果を生む緑とオープンスペースを充実させていく。また、公園や街路樹などの緑と河川空間などの水辺を適切に維持管理し、次世代につないでいく。

現状・課題を踏まえ重視する視点
(関連事項抜粋)

- 防災活動拠点となる公園の機能充実
- 浸水被害軽減につながる緑・水辺の整備（緑化と雨水流出抑制の連携など）
- 公園や河川等、施設の老朽化対策、植栽の適切な維持管理、更新

第1回・第2回策定委員会意見

- 街路樹について、これまでと同じ樹種の植栽では同様の問題が起きる。代謝性の高さ、樹冠被覆率なども考慮した樹種の選定も視野に入れる必要がある。

施策

3-1 まちの安全を支える緑・公園づくり

街づくりや公園再整備の機会などを捉え、災害時における地域の応急活動拠点としての公園の機能拡充、浸水被害軽減に資する緑・水辺の確保を進める。

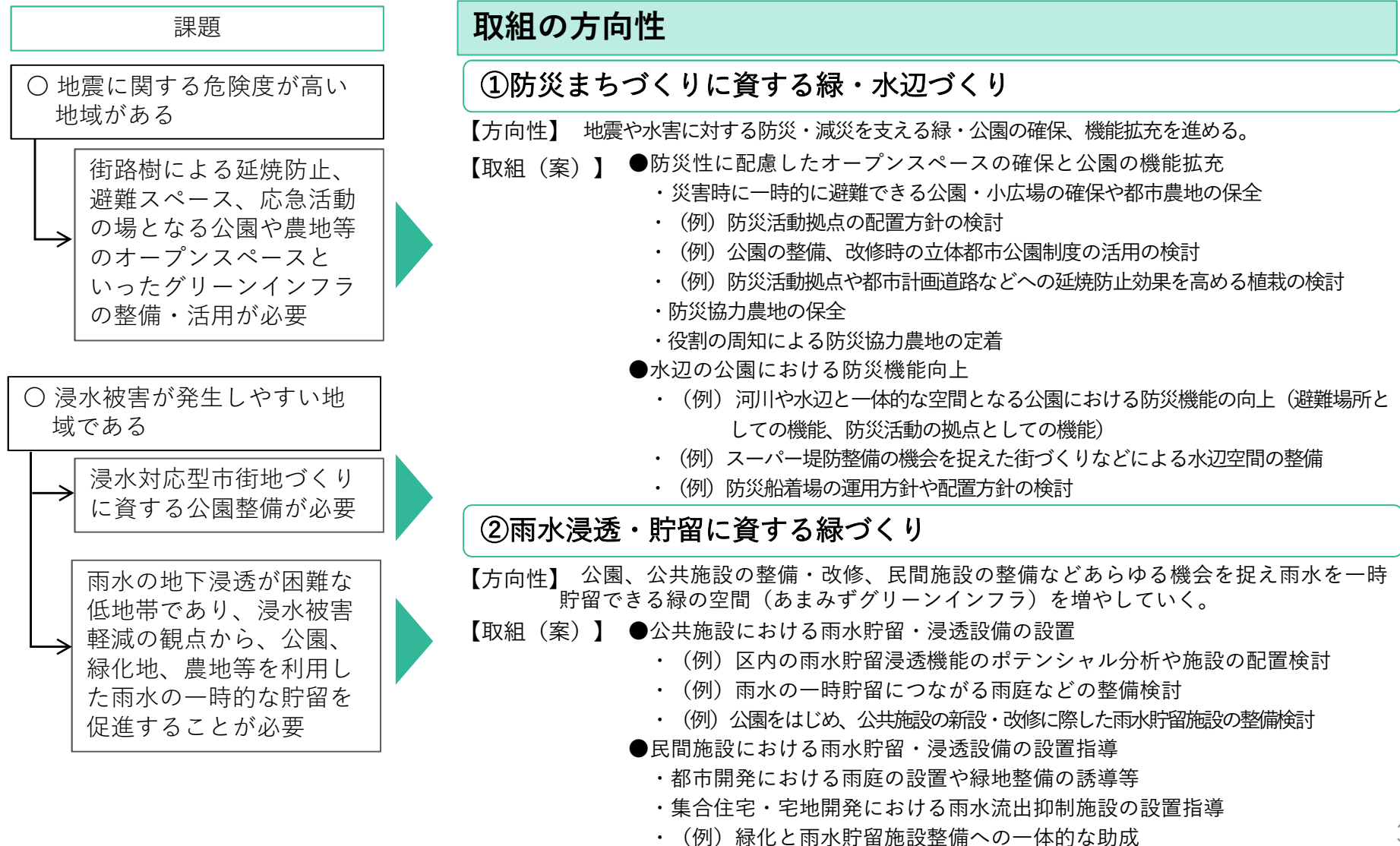
3-2 緑・水辺の施設の適正管理

緑・水辺を安全に利用できる環境を維持するため、施設の長寿命化、老朽化した施設の更新を計画的に進める。また、街路樹や公園樹木をはじめとした公共施設における樹木について、安全を確保しつつ健全に育成していくための維持管理、更新を計画的に進めていく。

施設、植栽の維持管理を適切かつ効率的に進めていくため、管理情報のデジタル化などDXを推進する。

(2) 各施策と取組の方向性

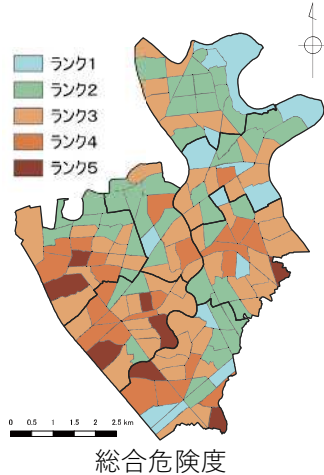
3-1 まちの安全を支える緑・公園づくり



防災と緑・水辺に関連する資料

1 葛飾区の現状

- ◇ 地震に関する危険度の高い地域が残る
- ◇ 集中豪雨などによる内水氾濫や河川水位の上昇、高潮など、浸水被害が発生しやすい地域



出典：東京都 地震に関する地域危険度測定調査（第9回）

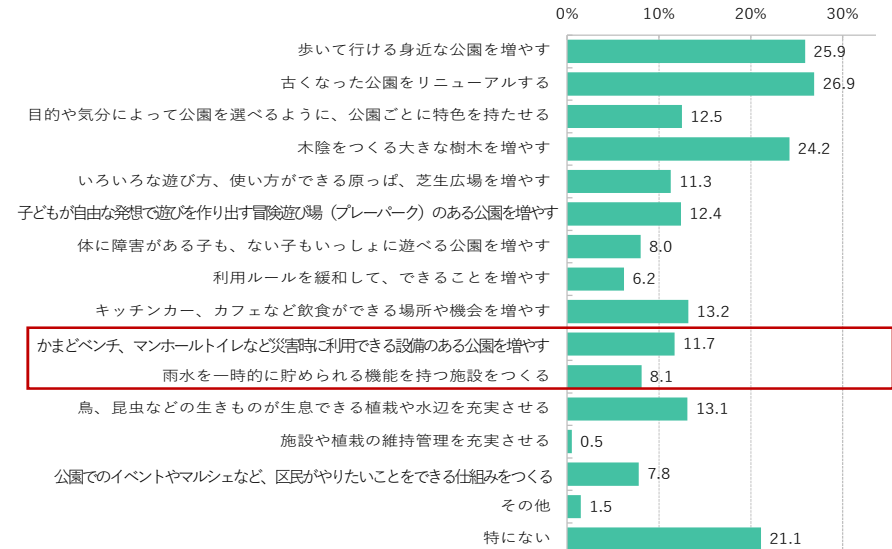


出典：葛飾区史

2 区民のニーズ（アンケート結果）

- ◇ 公園の防災機能拡充に対する区民の関心はやや低い

区内の公園に関して区役所に期待する取組（3つまで選択）



3 既存の主な取組

< 震災、水害への対策 >

- ・ 密集市街地整備事業を通じた公園・小広場の確保
- ・ 防災活動拠点公園の整備
- ・ 新小岩公園の再整備に伴う一部高台化
- ・ 公園などへの土のうステーション設置

< 雨水流出抑制対策 >

- ・ 葛飾区集合住宅等の建築及び管理に関する条例に基づく、雨水流出抑制施設の整備義務付け
- ・ 葛飾区宅地開発指導要綱に基づく雨水流出抑制施設、排水施設設置協議

令和6年度にオープンした防災活動拠点公園の一例



四つ木二丁目わんぱく公園

主な施設	多目的広場、児童遊具、幼児用遊具、健康遊具、トイレ、防災倉庫、かまどベンチ、防災井戸、マンホールトイレ など
------	--



防災パーゴラ



防災井戸・手押しポンプ

【参考事例】公園における防災機能および雨水貯留浸透機能の向上

【事例】神戸市 大国公園 公園が大規模火災による延焼を防止

◇大国公園（神戸市）は、平成7年の阪神淡路大震災発生時に長田区における大規模火災の焼け止まりとなり、延焼防止に貢献。

◇同公園は4m道路を隔てて焼失地域に接しており、避難地や消火・救助活動の拠点としても機能。

【効果1】火災の延焼防止

公園の外郭沿いには、クスノキを主とする樹木が30本近く植栽されており、水分を含んだ樹木が「水の壁」になった上、オープンスペースが延焼を食い止めた。



【焼け止まり効果を発揮】

【効果2】避難地として機能

震災発生直後は、周辺住民の避難地として機能した。



【震災発生直後、避難地として機能】

出典：国土交通省 ストック効果向上にむけた取組 事例集

【事例】世田谷区 上用賀公園、船橋4－3広場 レインガーデン（雨庭）などの整備

◇ゲリラ豪雨による都市型水害対策として、公園内にレインガーデン（雨庭）と呼ばれる雨水浸透緑地帯を設置。降った雨が地下にしみ込み、時間をかけて排水されることで、豪雨時の被害が軽減。

◇広場内に遊び場と雨水貯留・浸透機能を兼ねた「くぼ地」が整備。

みどりが持つ雨水の貯留・浸透、流出抑制、水質浄化、地下水涵養など、様々な機能を、水害対策にも活用しています。

●レインガーデン（上用賀公園）

公園に降った雨を植栽地で一時的に蓄えることで、下水道への急激な大量排水の負担を抑える働きがあります。



●くぼ地の遊び場（船橋4－3広場）

広場内に遊び場と雨水貯留・浸透機能を兼ねた「くぼ地」が整備されています。



平常時



大雨時

出典：世田谷区ホームページ

(2) 各施策と取組の方向性

3-2 緑・水辺の施設の適正管理

課題

- 老木化や大径木化した街路樹、公園樹木の倒木や枝折れなどの危険性が増大している
- 施設の老朽化対応が必要
- 区民ニーズとして、街路樹や公共施設の緑の維持管理が求められている

安全を確保しつつ、樹木を健全に育成する維持管理が必要

危険性のある施設、樹木を撤去した後の更新を計画的に進めることが必要

取組の方向性

①植栽の健全化につながる管理と資源の有効活用

【方向性】 安全の確保を前提に、生活環境や街・施設の魅力を向上するため、計画的な更新や中長期的な視点に立った適切な管理に取り組み、周辺状況に合わせた樹冠の確保、利用者等の満足度につながる健全で豊かな緑を育成する。

【取組（案）】 ●植栽の育成・管理・更新

- ・ 葛飾区街路樹管理計画等に基づく街路樹の維持管理、更新
- ・ （例）公園や公共施設内の注意を要する樹木（大径木化した樹木、老木化したサクラなど）を対象とした定期的な診断・評価の実施、更新計画の検討
- ・ （例）公園、公共施設の樹木管理指針や点検マニュアル等の作成
- ・ （例）区の花ハナショウブの活用と良好な状態を維持する管理計画の検討

●資源の有効活用

- ・ 植栽の管理により生じた枝葉など資源の有効活用

②施設の適正な管理

【方向性】 安全の確保と業務の効率化を両立させるため、施設管理・長寿命化に関する計画に基づき維持管理・更新を行うとともに、D Xを推進する。

【取組（案）】 ●施設の維持・再生

- ・ （例）公園機能の適正配置の検討及び計画的な更新と長寿命化
- ・ （例）準用河川の施設保全に関する検討

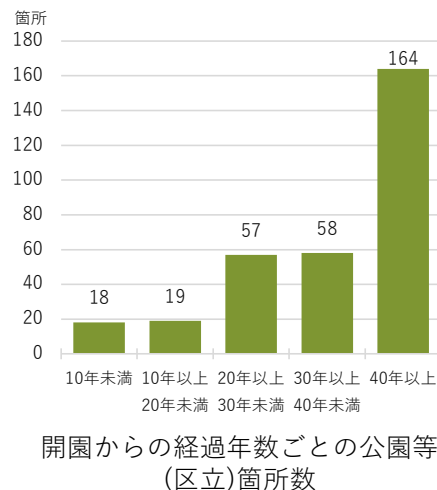
●維持管理に関するD Xの推進

- ・ （例）公共施設・公園・道路の植栽に関する既存資料のデジタル化とデータの更新
- ・ （例）管理・点検業務の効率化につながるシステム構築

緑・水辺の施設管理に関連する資料

1 葛飾区の現状

- ◇ 既設公園の老朽化対応が必要
- ◇ 街路樹について、狭い植栽空間や強剪定等による生育不良や樹形の乱れ、老齢化に伴う幹折れや倒木の危険性の増大、根上がりによる舗装の損傷などの課題が顕在化

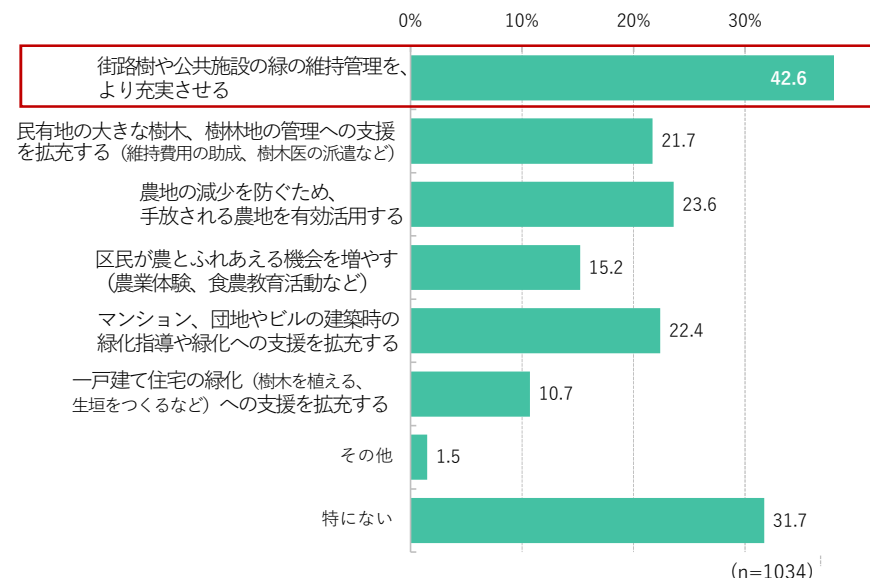


根腐れが起因し、倒木した桜
出典：葛飾区資料

2 区民のニーズ（アンケート結果）

- ◇ 街路樹や公共施設の緑の維持管理の充実を区に期待

区内の緑に関して区役所に期待する取組（3つまで選択）



3 既存の主な取組

< 施設の老朽化対応 >

- ・ 葛飾区公園・河川等総合管理計画に基づく公園、児童遊園、河川、船着場、排水場などの施設の改修、修繕、補修等による長寿命化

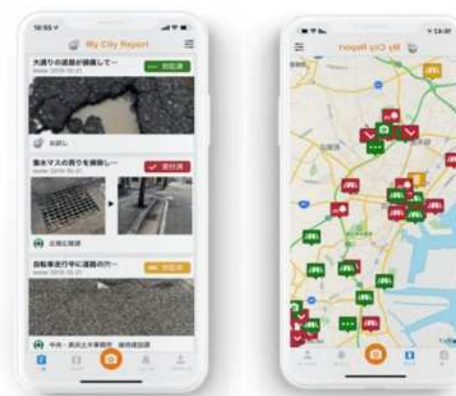
< 街路樹の維持管理 >

- ・ 葛飾区街路樹管理計画に基づく街路樹、緑道樹木の維持管理、更新

< 道路・公園の維持管理 >

- ・ 道路や公園の損傷・不具合をスマートフォンアプリで投稿できる「道路・公園通報システム」の運用

運用中の「道路・公園通報システム」



- ・ 道路・公園通報システムは、「My City Report for citizens(以下「MCR」)」というスマートフォンアプリを用いて、道路や公園の損傷・不具合をスマートフォンのカメラとGPSを利用して、手軽に投稿できるシステムである。
- ・ 投稿された情報をもとに現地を確認し、必要に応じて補修を実施している。



【参考事例】公園樹木管理指針

【事例】足立区公園樹木維持管理指針

- ◇安全確保を前提としつつ、大きく健全な樹木を育て、公園の魅力向上につながる緑づくりに取り組む「公園樹木維持管理指針」を策定
- ◇職員や委託業者等が、共通認識を持って日常の維持管理や公園の整備・改修などを行えるように、植栽の基本的配置、樹木等の維持管理に関する具体的な手法を示し、樹木の適正な管理を推進



出典：足立区公園樹木管理指針

【参考事例】維持管理に関するD X

【事例】公園管理システム (パークモニタリングシステム)

- ◇あらゆる情報をスマートフォンでリアルタイムに共有するとともに、情報をデータベース化して分析することで、より効率的で高品質な管理運営を実現。
- ◇各部署が集めた情報を一元化して共有。



出典：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言
参考資料【事例編（R7.3.31更新版）】

方針 4

緑・水辺でつなぐ人づくり

(1) 施策の考え方

方針4

緑・水辺でつなぐ人づくり

区民をはじめとする多様な担い手による様々な活動により、人のつながりやまちづくりへの主体的な参加につなげていくとともに、良好なコミュニティづくりなどを支える場としての活用を後押ししていく。

現状・課題を踏まえ重視する視点
(関連事項抜粋)

- 高齢化する担い手の活動継続のための環境づくり
- 参加者のすそ野の拡大
- 区民の意識や生活スタイルの変化を捉えた協働施策の展開

第1回策定委員会意見

- 区民一人一人のボランティアな協働だけでなく、事業者も含めた広い視野での協働の視点が必要
- 活動参加者のすそ野を広げることだけでなく、新しい仕組みや新しい担い手をどうつくっていくかも課題
- 担い手をつくる教育の仕組みが必要
- 子どもたちが大人になっても記憶に残る経験をさせてほしい

施策

4-1 緑・水辺をはぐくむ活動の推進

花いっぱいのもちづくり活動や公園等の自主管理など区民の活動をより広めるとともに、ライフステージや環境の変化など、担い手の状況に合わせた活動の継続を後押しする支援を充実させる。

4-2 未来の担い手づくり

事業者をはじめ、教育や福祉などあらゆる主体や事業との連携により緑・水辺を活用した人のつながり、まちづくりへの積極的な参加を緑・水辺から広げていく。

子どもや若者が水や緑に触れる機会を提供することで未来の担い手づくりにつなげる。

4-3 魅力が伝わる情報発信

緑・水辺に関心を持つきっかけとなるよう、多様な担い手と協力し情報発信を行う。

緑・水辺に関する基礎的な調査の継続により、区の実践に生かすとともに情報発信や様々な活動に活用されるよう、結果を広く公表、提供していく。

(2) 各施策と取組の方向性

4-1 緑・水辺をはぐくむ活動の推進

課題

○ 担い手が高齢化

→ 活動を継続できる環境づくりが必要

→ 参加者のすそ野の拡大が必要

○ 協働の必要性は認識されているが、担い手として取り組むことをイメージできていない可能性がある

→ 活動を体験できる機会をつくり、担い手としてできることや要する時間について、イメージをもってもらう必要がある

取組の方向性

①水と緑の活動の推進

【方向性】 培ってきた緑・水辺に関わる協働の取組を継続、活性化する。

【取組（案）】 ●花いっぱいのまちづくりの推進

●緑化、公園の自主管理等の活動推進

・活動の情報発信

・緑化推進協力員の活動の充実

・公園等の自主管理活動や河川愛護活動などの推進

●（例）水辺空間・船着場を活用する活動の支援

●活動団体の情報共有・交流の促進

・活動の顕彰

・（例）交流会、見学会など

②活動を支える仕組みづくりと人材育成

【方向性】 活動を支える仕組みの充実、新たな担い手の発掘につながる体験機会の創出や人材育成を進める。

【取組（案）】 ●活動を支える仕組みづくり

・（例）花苗、資材提供などを行うサポーター制度の構築

・（例）コーディネーターによる後押し（中間支援組織との連携、相談窓口の設置など）

・（例）活動を支援する財源の検討（基金創設、ふるさと納税の活用等）

・（例）活動に関するコミュニケーションへのデジタルツール（スマートフォンアプリ等）の活用

・（例）活動参加の動機につながる仕組みの検討

●担い手の育成

・（例）気軽に体験できる機会の創出

・（例）ボランティア育成講座の開催

(2) 各施策と取組の方向性

4-2 未来の担い手づくり

課題

○ 担い手が高齢化

→ 参加者のすそ野の拡大が必要

○ 協働の必要性は認識されているが、担い手として取り組むことをイメージできていない可能性がある

○ 健康づくり、子ども・子育て層向けのイベント、活動体験機会の創出にも一定のニーズがある

→ 活動を体験できる機会をつくり、担い手としてできることや要する時間について、イメージをもってもらうことが必要

○ 担い手をつくる教育の仕組みが必要（第1回策定委員会）

○ 大人になっても記憶に残る子どもの経験づくりが重要（第1回策定委員会）

取組の方向性

①誰もが主体になれる活動の展開

【方向性】 緑・水辺の活用につながる事業者との協働、健康・子育て・福祉など様々な分野の区民活動、事業との連携、ニーズの掘り起こしを進める。

【取組（案）】 ●他分野の事業との連携

- ・公園を活用した健康づくり事業
- ・（例）子どもの遊び、子育て支援活動による公園活用（プレイリーダーなど）
- ・（例）園芸療法など福祉との連携による緑化活動

●新しい活動の掘り起こし

- ・（例）区民、事業者、地域の団体等からの活動提案支援事業の構築
- ・（例）活動を展開しやすくするための制度検討
- ・（例）公園・水辺活用の手引きの作成

②子どもの学びと体験機会の創出

【方向性】 様々な主体と協力し、子どもの緑・水辺にふれあう機会や学び・活動参加につながる機会を創出していく。

【取組（案）】 ●緑の体験機会の創出

- ・（例）子どもと保護者、保育者を対象とした体験講座の開催
- ・（例）民間の保育所・学校等の緑化整備への支援

●環境学習、学校との連携

- ・いきものを観察する体験学習事業
- ・学校農園活動

協働に関連する資料

1 葛飾区の現状（既存の主な取組）

- ◇ 緑化や公園等の管理などを区民協働で実施
- ◇ 右表のほか「東立石緑地公園で中川に親しむ会」（区は後援）、荒川クリーンエイドの活動などがある

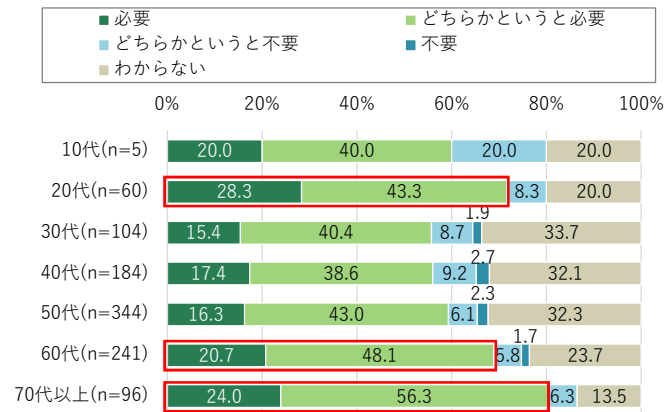
緑化や公園等の管理に関する主な活動

取組名	活動実績等
花いっぱいまちづくり活動	166か所・146団体（R7.1.1）
葛飾区緑化推進協力員制度	定員65名（任期2年）
公園等の自主管理	約60の公園・児童遊園

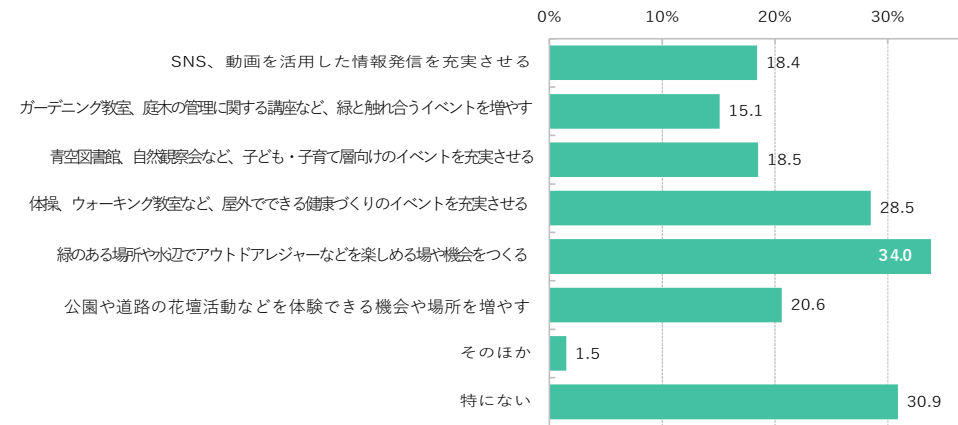
2 区民のニーズ（アンケート結果）

- ◇ 協働の取組は、20代、60代及び70代以上において、必要性を感じている人の割合が高い
 - ◇ してみたい取組は「特にない」が約4割、区に期待する取組も「特にない」が約3割
 - ◇ 取組の妨げになっていることは「特にない」（約3割）のほか「時間がない」「関心がない」（各2割）
 - ◇ 区に期待する取組は、アウトドアレジャーなどを楽しめる場や機会へのニーズが高いが、健康づくり、子ども・子育て層向けのイベント、活動体験機会の創出にも一定のニーズ
- 関心の低さが課題

緑化推進や水辺の活用によるまちの魅力向上のための協働の取組の必要性【年齢別回答】



区民が緑や水辺とふれあう機会を増やすために区役所に期待する取組（3つまで選択）



【参考事例】他分野の事業との連携

【事例】千代田区

「子どもの遊び場事業『ボール遊びをしよう』」

- ◇ プレイリーダーのサポートのもと、公園や校庭などでボール遊びが自由にできる事業。
- ◇ 「千代田区子どもの遊び場に関する基本条例」（平成25年制定）を受け、子どもたちが自由に外遊びを楽しむ環境を整えることにより、子どもたちの健全な育成を図ることを目的とし、子育て推進課が事業を所管。
- ◇ 子どもの遊び場の管理及び運営はNPO法人に委託。



出典：千代田区ホームページ

【参考事例】新しい活動の掘り起こし

【事例】川崎市「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園 スターターブック」

- ◇ 公園を身近に感じ、活動の第一歩を踏み出せるよう、公園の楽しみ方やはぐくみ方などの方法や事例をまとめたパンフレットを作成。
- ◇ サポート窓口や市民活動ポータルサイト等を通じて、団体の設立や運営、市民の参加を支援。
- ◇ 公園緑地愛護会やソーシャルデザインセンター等の多様な団体と連携。情報交換や専門的なサポートを提供し、地域に根差した活動を支援。



出典：川崎市ホームページ

【参考事例】活動を支える仕組みづくり

【事例】都立公園における「ちょいボラ」

- ◇ 都立公園の複数の指定管理者が、初めての人でも気軽に参加できるボランティア体験「ちょいボラ」を実施。
- ◇ 一例として六仙公園では、指定管理者が主催し、年数回、ボランティアの方々と一緒に花壇の手入れに参加できる「ちょいボラDAY」を開催。

出典：むさしのの都立公園ホームページ



【事例】福岡市「一人一花運動」

- ◇ 市内のあらゆる場所での花づくりを通じて、花によるまちづくりを目指す「一人一花運動」を実施。
- ◇ 歩道、公園等で行う「ボランティア花壇」のほか、自宅や店舗の花壇づくり、花壇づくりへの協賛、水やり支援など、様々な参加方法を提供。



参加方法の例

<個人・団体・企業向け>

■ボランティア花壇

歩道や公園などの公共空間の花壇づくり

■一人一花パートナー花壇制度

自宅の花壇や店舗、事業所など民有地で取り組む花壇づくり

■一人一花ファンド

一人一花運動を推進するための費用の寄付

<企業向け>

■おもてなし花壇（スポンサー募集）

人通りの多い都心部の花壇づくり活動への協賛

■一人一花水やりパートナー

市民や団体の花づくり活動への水の提供や水やりの支援

■サポート企業

花苗・園芸用品の割引、花壇のデザインや管理方法などの作業サポート（有料）による参加者の支援

【事例】中央区「はな街道」

（国道の花壇管理における花苗の費用提供と管理の役割分担）

- ◇ 名橋「日本橋」保存会と日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会が周辺町会の協力の下、国土交通省東京国道事務所と官民パートナーシップで地域の美化活動を実施。
- ◇ 沿道の町会や企業などが、花苗の費用を提供する「フラワーサポーター（花奉行）」または水やりなどの管理を行う「フラワーボランティア（水奉行）」として活動を支援。



出典：NPO法人はな街道ホームページ

【事例】Parkful Watch

（活動団体と行政のコミュニケーションのDX化）

- ◇ 団体の活動記録や行政への連絡をアプリで簡略化し、団体の負担を軽減。
- ◇ 全国の公園情報を掲載するメディア「PARKFUL」と連動し、団体の活動発信につなげることも可能。
- ◇ 活動状況の可視化と発信により地域認知度の向上を促進。



出典：Parkfulホームページ (<https://parkful.net/2021/06/parkful-watch/>)

【参考事例】活動を支える仕組みづくり

【事例】三鷹市「みたか地域ポイント（愛称：みたぽ）」

- ◇「みたか地域ポイント」は、ボランティア活動や地域活動の推進、コミュニティや地域経済の活性化を図り、地域課題の解決や地域のにぎわいを創出することを目的として、三鷹市が独自に発行する地域ポイント（地域通貨）
- ◇ポイントは、市が指定するボランティア活動や地域活動（※）、市が指定するテーマに関連するイベントへの参加により取得可能（※令和7年度のテーマは「健康増進」「環境保全」「防災」「平和」）
- ◇貯めたポイントは、一部の公共施設の使用料等の決済、記念品との交換、利用者間のポイント交換などに使うことが可能で、三鷹産農産物の庭先販売所でも利用可能



出典：「みたか地域ポイント」チラシ

ポイントを取得できる活動例（令和7年度）

■三鷹大沢わさび保全ボランティア



出典：【報道発表】「三鷹大沢わさび」の植付とガイドツアーを開催します（令和5年5月22日発表）

■大沢の里古民家季節の草花ボランティア



草花ガイドツアー

出典：三鷹まるごと博物館
【三鷹市公式】
Instagram

(2) 各施策と取組の方向性

4-3 魅力が伝わる情報発信

課題

- 区の実組に対する認知度が低い（特に若い世代）

- 協働の必要性は認識されているが、担い手として取り組むことをイメージできていない可能性がある
- 「特にない」「関心がない」ことが妨げになっている

まずは、緑・水辺に関心を持つきっかけをつくる
ことが大切

- データによる現状把握に加え、施策・取組へのデータの活用が重要（第1回策定委員会より）

取組の方向性

① 多種多様な情報発信

【方向性】 様々な媒体の活用やメディアとの連携によって、身近な緑・水辺や活動について関心を持つきっかけとなる情報を積極的に発信する。

【取組（案）】 ●緑・水辺を知る・楽しむきっかけを生む情報発信

- ・ 子育て世代向けの施設・イベント情報の発信
- ・ 利用者をはじめ区民参加型の情報発信（SNSなど）
- ・ （例）水辺を楽しむスポット、水辺のフォトスポット等水辺の情報発信

●緑・水辺に関わる活動の情報発信

- ・ （例）活動の担い手や場所、内容などの情報発信
- ・ （例）地域のメディア（FM、ミニコミ誌、企業等）と連携した情報発信

② 緑・水辺に関するデータの蓄積と活用

【方向性】 緑被率・みどり率、緑・水辺に関する区民満足度や意識等の基礎的な調査を継続し、データの蓄積・公表、施策・取組への反映を進める。

【取組（案）】 ●基礎的なデータの把握と活用

- ・ 緑被率・みどり率調査（樹木被覆率含む）の継続実施
- ・ 調査結果の公表、施策・取組のPDCAへの活用

●区民参加型の情報収集

- ・ （例）スマートフォンを活用した市民参加型の緑・水辺に関する調査

情報発信に関連する資料

1 葛飾区の現状（既存の主な取組）

◇ 区ホームページ、広報かつしかを中心に情報発信を実施

◇ 区のソーシャルメディアを使い情報発信を実施

- ・ Facebook、エックス、公式ラインにて公園の開園情報やイベント、利用者募集などについて発信。

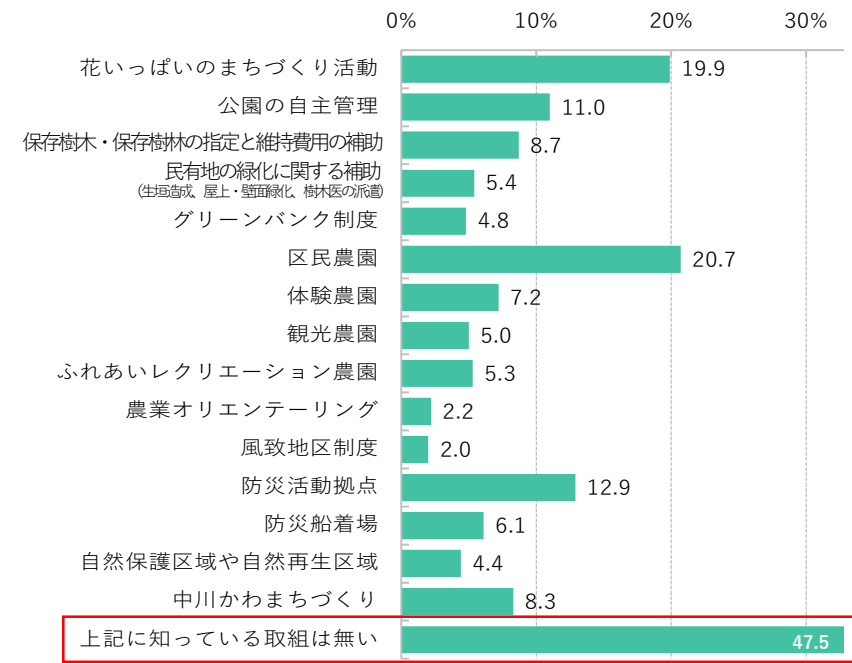
2 区民のニーズ（アンケート結果）

◇ 47.5%の回答者が、選択肢に「知っている取組は無い」と答えており、区役所の取組の認知度は高くない

◇ 若い世代の方が「知っている取組は無い」と答えた割合が高い

→情報を伝える工夫が必要

知っている区役所の取組（複数回答）



(n=1034)

知っている区役所の取組【年齢別】

	(n)	花いっばいのまちづくり活動	公園の自主管理	持費用の補助 保存樹木・保存樹林の指定と維持費用の補助	民有地の緑化に関する補助 (生垣造成、屋上・壁面緑化、樹木医の派遣)	グリーンバンク制度	区民農園	体験農園	観光農園	ふれあいレクリエーション農園	農業オリエンテーリング	風致地区制度	防災活動拠点	防災船着場	自然保護区域や自然再生区域	中川かわまちづくり	上記に知っている取組は無い
全体	(1034)	19.9	11.0	8.7	5.4	4.8	20.7	7.2	5.0	5.3	2.2	2.0	12.9	6.1	4.4	8.3	47.5
10代	(5)	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
20代	(60)	21.7	10.0	10.0	8.3	8.3	5.0	3.3	10.0	5.0	5.0	1.7	6.7	3.3	3.3	5.0	55.0
30代	(104)	21.2	12.5	11.5	6.7	4.8	14.4	8.7	5.8	6.7	3.8	1.0	12.5	3.8	2.9	6.7	51.0
40代	(184)	18.5	11.4	5.4	6.0	3.8	17.4	9.2	6.5	6.5	3.3	2.7	10.9	5.4	4.9	8.7	51.1
50代	(344)	18.6	11.6	7.8	4.9	4.9	18.3	7.8	4.1	3.5	0.9	1.5	11.3	5.5	4.1	6.7	51.5
60代	(241)	17.4	10.0	8.7	4.1	4.1	27.8	5.0	4.1	6.2	1.7	2.1	17.0	6.6	5.0	10.8	41.9
70代以上	(96)	30.2	10.4	14.6	6.3	5.2	34.4	6.3	4.2	5.2	2.1	4.2	16.7	12.5	6.3	11.5	33.3

【参考事例】

【事例】福岡市「一人一花メディアパートナー」

- ◇ 一人一花運動のプロモーションに協力する企業・団体が「一人一花メディアパートナー」となり、一人一花運動に関する制度やイベント等、最新情報を幅広く発信。



メディアパートナーとしての活動例

- ①WEBサイト等での記事掲載、ラジオやテレビ番組における発信
- ②店頭等で市から提供する一人一花ノベルティ等の配布
- ③アプリ連動、写真展、撮影会等のコラボ企画の実施
- ④一人一花運動に因んだコラボ商品の展開

(取組例) 自社媒体での情報発信



(取組例) ノベルティ配布



(取組例) コラボ商品



出典：福岡市ホームページ

【参考事例】

【事例】仙台市「市民協働による樹木調査とDX」

- ◇ 樹木情報のデータベース化を市民協働で行う実証実験を仙台市と事業者が連携して実施。
- ◇ はじめに、樹木の位置、樹高、直径、枝下高さ等の樹木の基礎的な情報をデジタル公園樹木台帳として整備。
- ◇ 実験に参加した市民が対象樹木をスマートフォンで撮影し、樹種、樹勢、腐朽菌の有無といった付加情報を登録。樹種は、画像データからAIが種名を判定。
- ◇ 種名一致率は32% (308件/936件) だったが、腐朽菌の有無は一致率が約85%という結果が得られている。



出典：国土交通省 PLATEAUホームページ